

2024年8月

CEO インサイト

2024年8月1日付で建翔キャピタルマネジメント株式会社の代表取締役社長に就任した篠原竜一です。宜しくお願い致します。

就任した途端に日本株に調整が入り始め、同時に米国の雇用統計など経済指標が市場予想を下回り、その結果、米国の景気減速懸念が広がったことを受け、グローバルに株式市場が大幅に下落する展開となりました。

しかしながら、5日に発表された米国のISM Non-manufacturingインデックスが51.4と市場予想を上回り、加えて雇用指数が51.1と、前月の46.1から上昇したことから、7月の非農業部門雇用者数の減少が労働市場の悪化の始まりを示唆するものではないとの見方が広がりました。これを受け、米株式市場が一旦落ち着きを取り戻し、グローバルに株式市場が急速に値を戻しています。

市場参加者は、これまで金利差に注目してきましたが、欧州中央銀行(ECB)による利下げが6月に実施され、9月には米連邦準備制度理事会(FRB)による利下げが確実視される中、7月に日本銀行による利上げが実施された事により、今後の市場の注目はよりファンダメンタルズに移っていくものと思料されます。

気になるのは、米国景気は市場が心配するほど悪くはないという事です。労働市場は、失業率4.3%、平均時給は年率3.6%で上昇しており、引き続き健全なことから、過度な利下げ期待は持たないほうが良いかもしれません。インフレ率は鈍化してきているものの、FRBがターゲットとする2%に低下するにはまだ時間がかかるという状況です。

斯かる状況下、為替、国債、株式など流動性の高い金融商品は当面ボラタイルな展開が続くものと思われれます。

一方、実物資産は欧米金利の急騰を受け、調整が続いてきましたが、流動性の低い商品にとっては、先行き不透明感はあるものの、欧米中央銀行の次の一手は利下げであり、高金利で頭を抑えられてきた実物資産の大きな転換点が近づいてきた可能性が高いと考えています。既にアメリカではモーゲージ金利の低下を受け、住宅ローン申請件数が増えると同時に借換え申請も大きく伸びています。



篠原 竜一 (Ryuichi Shinohara)
代表取締役社長、
建翔キャピタルマネジメント株式会社

>>>

投資家にとって、今後のポイントは、いかにポートフォリオを分散するかということだと考えています。現状、北米、東南アジア、オーストラリア、英国のエクスポージャーの大きい日本の投資家にとって欧州大陸へのアロケーションを増やす必要があるのではないのでしょうか？

9月には、ECBによる追加利下げが予想される中、欧州大陸のエクスポージャーの大きい欧州投資家の動きが鈍い状況が続いており、日本の投資家にとってはチャンスと言えるかもしれません。欧州不動産投資に加え、世界をリードする再生可能エネルギーへの投資を検討する価値があると思っています。

欧州ではエネルギー危機を受け、再生可能エネルギー投資に注目が集まっていますが、どの業界にとっても再生可能エネルギーをどう活用していくかは、今後の大きな課題となるでしょう。例えば、航空業界にとっても Sustainable Aviation Fuel(SAF)を効率的に調達するためには、再生可能エネルギー、特にグリーン水素への投資はひとつの解決策かもしれません。先日SAFに関する興味深いセミナーを弊社のドイツのパートナーであるKGAL社が開催しました。ご興味ある方はビデオリンクを共有出来ますのでご連絡ください。

グローバルマーケットが落ち着くには今暫く時間がかかると思いますが、今後も定期的に実物資産市場を中心にアップデートしていきますので、宜しくお願い致します。

篠原 竜一 (Ryuichi Shinohara)
代表取締役社長、
建翔キャピタルマネジメント株式会社